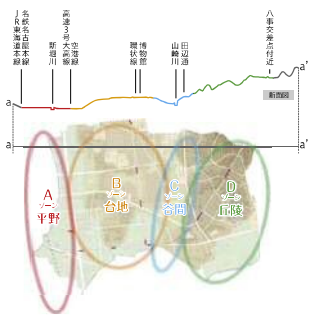
瑞穂区近代の歴史散歩

—身近な「地域遺産」発見・発掘—

石川土地区画 整理組合事務所（昭和４年の村上町付近）

瑞穂区のまち並みは、明治～昭和前期の耕地整理・区画整理事業などによってつくられました。
規則正しく区切られた道や曲がりくねった道など今の「つくられた」まち並みには、現在と過去をつなぐ痕跡、まちをつくった古人が瑞穂区の未来に託した名残が、各所にあります。

足の向くまま、気の向くまま、時に歩いた跡をふりかえりながら、散歩をしてみましょう。



A～平野　南には重要な交通の幹線が通っている
新堀川周辺には大企業や工場が並ぶ

B～台地　台地上には新旧の住宅が並んでいる
大学や高校が多い文教地域になっている

C～谷間　静かな住宅地を山崎川が流れている
南には国体の開かれた瑞穂運動場がある

D～丘陵　丘陵地形がそのまま住宅地になっている
市内でも有数の緑の多い地域である

デザイン　名古屋工業大学 藤岡伸子研究室
協力　瑞穂うるおいまちづくり会 / 池田誠一 / 学校法人越原学園（名古屋女子大学）
発行　名古屋市瑞穂区役所地域力推進室
TEL 052-852-9303　FAX 052-852-9306
令和5年3月改訂発行（1000部）
このリーフレットは古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

Aゾーン［平野］

まち歩きポイント　瑞穂区の母なる運河“新堀川”

瑞穂区域は、明治に入っても田んぼや畑などが広がる、農業地域でしたが、運河が整備されると、周辺に水運を利用した大工場が立ち並び、西から東へと工業・商業の町へと変貌を遂げていきました。

“瑞穂”の由来?!“明治天皇覧穫之所”

明治元年(1868)明治天皇が遷都のため、京都から東京へ向かう途中、東海道の八丁畷(現神穂町付近)にて、輦を止めて、初めて稲の収穫をご覧になられた場所です。

豊葦原千五百秋之瑞穂之国　～日本書紀～
意味:豊に葦が生い茂る原、限りなく長い年月、瑞々しい稲穂が実る国

瑞穂区の“瑞穂”の名は、この事柄が広く知られたため、明治７年(1874)の村の合併協議の時に「瑞穂村」と命名され、明治９年(1876)に瑞穂村が成立したのに始まると考えられます。

「明治天皇収穫叡覧」森村宜稲筆　熱田神宮所蔵

江戸時代からの構想！　東の堀川“新堀川”

前身は精進川という大雨のたび氾濫するような、低湿地を流れる曲がりくねった川でした。明治37年(1904)日露戦争が始まり、周辺の湿地帯に兵器工場を建設することになりました。それに伴い、精進川改修工事を行い、掘削で出た土は、用地の埋め立てに使いました。工事は明治43年(1910)に完成し、工場と港を結ぶ運河となりました。
新堀川と名前を変えた川の沿岸には、砲兵工廠、日本車両、服部紡績、日本碍子などの大工場が立ち並び、工場で働く工員が集まり、まちを活気づかせ、商売を呼び、人が多く住まう住宅を形成していきました。

大名古屋市街地図（大正13年）

見どころポイント 1　明治天皇覧穫之所

東ノ宮神社にある３つの石碑
a.明治天皇覧穫記念碑
b.熱田神宮御供本田奉獻記念碑
c.明治天皇八丁畷御野立所

見どころポイント 2　新堀川の碑

改修工事の経緯や掘った土が工場用地や鶴舞公園の埋立てに使われたことなどが記されています。

Bゾーン［台地］

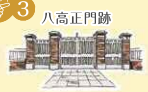
まち歩きポイント　坂の上の“瑞穂台地”

瑞穂台地は古墳などの遺跡や神社が多くあるように、古くから人の営みや文化の歴史が続いている所です。高田街道や平針街道をはじめとする道路や、市電などの交通機関の整備（区内では大正12年(1923)、小針(鶴舞図書館付近)⇔牛巻）が進み、人々が頻繁に行き来する道路沿いには、商店街が形成され、従来からの集落とを繋いでいきました。台地の上は、湿地・沼地の類がなく、ほとんど高低がない畑地で環境もよく、用地買収も容易にできたため、明治後期から、学校が続々と開校しました。熱田駅から学校へと続く坂を上り登校し、勉学に励んだ学生が、近代の日本を担っていったのです。

台地へ…“東西に伸びた商店街”

西から瑞穂台地へ上っていくように、工場労働者などの住宅が建てられ、通勤経路には、商店街が形成されました。賑町商店街には、大正15年(1926)に、栄市場が設けられ、また、最盛期の雁道商店街は、西区の円頓寺商店街と並ぶ賑わいを見せていました。現在は、市電の廃止や交通事情の変化などにより、かつての活気は薄れましたが、今でも下町情緒が心地よいまち並みが残っています。

見どころポイント 3　八高正門跡　塀の煉瓦



八高は、現在、名古屋市立大学滝子キャンパスとなっていますが、以前は塀に、剥がれ落ちたモルタルの裏に隠れている、当時の八高の煉瓦の跡を見ることができました。

瑞穂の文教地域の始まり“五中”

明治時代は、学校はナンバー制がとられており、愛知県のナンバー中学は、一中(旭丘高)、二中(岡崎高)、三中(津島高)、四中(時習館高)と続き、明治40年(1907)県立第五中（県立瑞陵高校の前身）が設立されました。

名古屋高等教育の源泉“八高”

最高学府の大学につながるナンバースクールは、一高(東大)、二高(東北大)、三高(京大)、四高(金沢大)…と続き、明治41年(1908)第八高等学校(名古屋大学旧教養部前身)が設立されました。戦後、名古屋大学の東山キャンパス統合後、名古屋市立大学の文科系学部の用地になりました。
正門は、明治村の正門として移転保存されています。塀は、元の赤煉瓦のものにモルタル吹き付けをして利用されていました。

八高正門

見どころポイント 4　「河合塾」設立の地

河合塾の歴史は、名古屋高等商業の教授だった河合逸治が昭和８年、昭和区下構町の自宅で開いた河合英学塾から始まりました。昭和12年、現在の駒場町に校舎を新築、「河合塾」と改称。現在、旧校山校の北側に復元した校舎があります。

Cゾーン［谷間］

まち歩きポイント　区画整理の賜物“瑞穂公園と桜並木”

区画整理事業は、幹線となる道路をつくり、公共施設・公園の用地を寄付し誘致することにより、市電の敷設などインフラの整備を促進し、地区の価値の上昇・発展に貢献しました。

つくられた名所“山崎川の桜”

山崎川は、名古屋東部丘陵地にある猫ヶ洞池を主な水源とし、瑞穂台地と八事丘陵の谷間を流れている川です。大雨で氾濫を繰り返す川であったため、昭和の始め、区画整理事業で蛇行箇所を修正しました。現在でも旧流の痕跡が、流域周辺の段差や道筋に表れています。
石川土地区画整理組合は、住宅地としての価値を高めるため、組合協賛会を組織して、乗合自動車を営業し、交通の便を図り、山崎川を整備し、竹林をすべて伐採し、石川橋～鼎橋に桜の木を植え、地区の美化を図りました。植樹された昭和３年(1928)は、同種の並木でも最古クラスです。その後下流にも桜が植えられ、上流と下流で桜の木の寿命が来る時期がずれ、常に桜並木を楽しめるようになりました。

見どころポイント 5　さくら名所100選の碑

萩山橋の東側に「さくら名所100選の地」の碑が設置されています。橋の手すりには、右のような桜の飾りや銅板があしらわれています。

誘致された運動公園“瑞穂公園”

瑞穂耕地整理組合は、第一次世界大戦後、国民の体位の向上や、昭和15年(1940)の東京オリンピック開催が決定されるなどの動きのなかで、土地の付加価値を上げるため「運動公園」を誘致しました。しかし、1組合では面積が不足したため、隣接組合(弥富、弥富南部)と協力して約12ヘクタールの土地を捻出し市に寄付しました。昭和25年(1945)天皇・皇后両陛下がはじめてご臨席されることになった第５回国民体育大会が開催され、戦後の名古屋を活気づけるとともに道路や交通機関のインフラが整備され、戦後の発展に大きく貢献しました。

瑞穂にあった！“萩山ゴルフ場”

瑞穂公園付近には、昭和９年（1934）に作られた、９ホールのゴルフ場がありました。しかし、戦時に芋畑にされ、戦中に廃止されました。

萩山ゴルフ場 クラブハウス（昭和９年）

見どころポイント 6　正及神社

徳川家康を祀る東照宮。1716年、第６代藩主 継友の命で創建。
標高も高く、名古屋城下を望む、風光明媚な地として評価されていたことがうかがい知れます。

区画整理の祖“東郊耕地整理組合”

大工場、商業地域、官立諸学校を周辺に擁す瑞穂区域北西の地域で大正元年(1912)に設立されました。瑞穂区内で最初の整理事業でした。

当時画期的だった点

①事業法は、農地の利便性を向上させる「耕地整理」でしたが、実際は広い道路をつくるなど「宅地」の整理を行ったこと
②事業費の一部を整理後の土地の値上がりを見越し地権者が少しずつ土地を提供して販売し、捻出する「減歩」で賄ったこと

これらは後にできた「土地区画整理法」に活かされました。

以降、耕地・土地区画整理事業により、宅地用に田畑を碁盤に区切り、丘を削り、土を運び、農業用のため池を埋め立て、時には、塚や古墳をならし、道を開き…現在の瑞穂区の原形がつくられたのです。

明治24年地図（国土地理院）

大正９年地図（国土地理院）

見どころポイント 7　東郊耕地整理組合の碑

笹原辰太郎氏が率いた東郊耕地整理組合は、南は牛巻通から、北は鶴舞付近までの耕地整理を行った。
記念の碑は高田小学校の北に位置する直会社に設置されている。

Dゾーン［丘陵］

まち歩きポイント　理想郷の創作“山林都市”

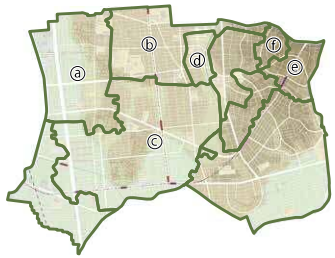
大正の始め、無秩序に木々は切り倒され、薪となり、赤土の露出が目立った、荒れた八事の丘陵地を前に、３人の男がいました。江戸以来の風光明媚な景勝地を取り戻すために「八事保勝会」を立ち上げた元愛知郡長の笹原辰太郎、地元の八勝館館主の柴田次郎、郊外都市論「山林都市」を構想していた都市計画家、黒谷了太郎です。彼らは、その志で大正12年(1923)、八事耕地整理事業をおこし、見事、この丘陵地帯を名古屋屈指の住宅地に変えました。現在も風致地区として、地元住民の方などの協力のもと、良好な居住環境が維持されています。

八事の開発計画図

意図的に残した、緑と美しい起伏の地形

「山林都市」の思想の精神をすべて体現したものにはなりませんでしたが、次のとおり、地区の開発の特徴が挙げられます。

①山は切り崩さず、坂道はならさない。
②道路は、尾根筋・谷沿いなどを活かし、葉脈状、曲線に引いた。
③良質な成木は、伐採せず、風致木として残した。
④敷地内に緑を残すために、一筆の土地の面積を大きくとった。
⑤土地の高低を考慮して、台地には「岡」、凹地には「園」とし、地名で四季を風趣豊かに演出した。
紅葉園、松風園、梅園、桜ヶ岡、緑ヶ岡、月見ヶ岡、雲雀ヶ岡



ⓐ東郊耕地整理組合　ⓓ石川土地区画整理組合
ⓑ阿由知耕地整理組合　ⓔ八事耕地整理組合
ⓒ瑞穂耕地整理組合　ⓕ南山耕地整理組合

瑞穂区内の主な耕地・土地区画整理組合　地図

明治の幹線道路“郡道”

郡道という道路は、地方公共団体としての「郡」があった頃につくられた道路です。

国道―県道―郡道―町村道と階層化

区内の主な郡道には、次の3本があります。
千種街道　呼続町千窯～千種町(古井の坂)
平針街道　熱田停車場～平針
高田街道　熱田兵器廠～五中

「郡」という行政体は、三つの段階があり、郡道は①の段階でできました。

①地方公共団体：郡議会、郡参事会、予算執行権
明治23～大正12（郡制）
②出先機関：郡長、郡役所
明治11～大正15（郡区町村編成法）
③地域名称：行政区域の名前
明治11年～現在（郡区町村編成法）

※古代から「郡」はあったが、地理的区分として使用される例が多くありました。

第五中学卒業　杉原千畝「人道の道」

「命のビザ」で知られる杉原千畝は第二次世界大戦中、迫害から逃れようとするユダヤ系避難民にビザを発給し、多くのユダヤ人を救いました。名古屋市は、当時の居住地付近(中区平和)から高田街道を通り、第五中学校を結んだルート約4.5kmを「杉原千畝人道の道」と名付けました。

第五中学校